

## 抄 六字釈義

## 一．題意

名号「南無阿弥陀仏」は、阿弥陀仏の願行が具足(善導の御釈)し、**悲智が円具(宗祖解釈)**している、**如来から回施された衆生を往生成仏せしめる如来の行体**である。

## 二．出拠

(一)『観経疏』「玄義分 別時意会通」(全 1-457,七祖篇 P325、原典版 P366))

今此観経中十声称仏、即有=十願十行-具足。云何具足。言=南無-者即是歸命、亦是發願回向之義。言=阿弥陀仏-者、即是其行。以=斯義-故必得=往生-。

(二)『教行信証』「行文類」(全 2-22,註釈版聖典「六字釈」P170)

爾者、南無言歸命。……………是以、歸命者本願招喚之勅命也。言=發願回向-者、如来已發願回=施衆生行-之心也。言=即是其行-者、即選択本願是也。

(三)『尊号真像銘文』「本 玄義分の解釈」(全 2-588,註釈版聖典 P655)

善導和尚の云く、「言=南無-者、即是歸命、亦是發願回向之義。言=阿弥陀仏-者、即是其行、以=斯義-故必得=往生-」(玄義分)「言南無者」といふは、すなはち歸命と申すことば也、歸命はすなはち釈迦・弥陀の二尊の勅命にしたがひて召しにかなふと申すことばなり、このゆゑに「即是歸命」とのたまへり。「亦是發願回向之義」といふは、二尊の召しにしたがふて安樂浄土に生れんとねがふころなりとのたまへる也。「言阿弥陀仏者」と申すは「即是其行」となり、即是其行はこれすなはち法蔵菩薩の選択本願なりとするべしとなり、安養浄土の正定の業因なりとのたまへるころ也。

三．<sup>しゃくみょう</sup>釈名：「釈名」とは、名目(教義概念)を解釈する意、教義概念規定をいう。文言の定義である。

「六字釈義」とは、南無阿弥陀仏についての善導大師や宗祖のご解釈の意義をいう。

## 四．義相

(一)善導大師の六字釈は、願行具足するので、浄土往生できると示された。

(二)宗祖は「行文類」六字釈で、**則是其行の智慧・發願回向の慈悲が円具した六字の本質**と如来成就の**歸命・發願回向・即是其行の六字の三義**を明らかにされ、「銘文」で

は「歸命」と「發願回向」を衆生が勅命に従う**信心として**顕わされた。

「歸命」は、六字釈では如来の勅命であるとし、銘文では二尊の勅命にしたがひて召しに叶うことであると示され

「發願回向」は、六字釈では如来が大行を衆生の行として施されてあるとし、銘文では二尊の召しに従つてお浄土に生まれたいと願う心であると示されている。

いずれにせよ、二尊の召しに叶う(従う)と示されている。これを「勅命の他に信心なし」という(セミナーP244)。

(三)法然門下の歸命の三義

「歸順勅命(浄土真宗)は、「勅命の他に信心なし」の意である(セミナーP244)。

「歸投身命(鎮西宗)は、「自らの身命を如来に捧げて救いを請う」意である。

「歸還命根(西山派)は、「迷いの命を捨てて阿弥陀仏の悟りの命に歸る」意である。

## 五．結び

善導大師は願行具足を、宗祖は**悲智円具の六字の本質**と如来成就の**歸命・發願回向・即是其行の六字の三義**を明かにされた。更に「銘文」では「歸命」と「發願回向」を衆生が勅命に従う**信心として**顕わされた。以上